

# 環研センターNEWS

平成30年11月号 山形県環境科学研究所

今月号の  
記事

【事業報告】 JICA草の根技術協力事業 / 【事業報告】「やまがた環境展 2018」に出展…… 1
【事業報告】 大気環境部の研究発表について / 【ほっとNEWS】 水銀測定ははじめました…… 2
【各部紹介】 環境化学部 / 【お知らせ】 アドバイザー派遣 / 【環境ミニ知識】 山の実り調査…… 3
【所長通信】 / 【職員自己紹介】 【編集後記】 …………… 4

## 【事業報告】 黒龍江省へ行ってきました（JICA草の根技術協力事業）

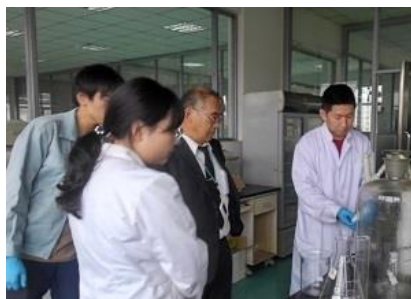
9月19日から28日まで、会田副所長（兼）環境企画部長と水環境部小林研究員が、黒龍江省ハルビン市で技術指導等を行ってきました。（7月下旬に黒龍江省からの研修員を迎えて当センターで研修をした後、このたびは当センター職員が黒龍江省で現地指導を行ったものです。）

初めの週は、JICA中国事務所の職員2名と一緒に、黒龍江省環境モニタリングセンターで表敬挨拶や黒龍江省内の技術者・大学生等約30名に対して日本の土壌汚染調査手法の講義を行ったほか、黒龍江省環境保護庁へ表敬訪問も行いました。次の週には、環境モニタリングセンターにおいて、土壌分析の技術指導を行なったほか、黒龍江省環境科学研究所の訪問及びハルビン市内にある土壌調査試料の前処理作業施設や下水処理場などの環境関連施設の視察も行いました。

黒龍江省では、環境モニタリングと環境に係る研究はそれぞれの機関で役割分担をしているようですが、職員の人的交流も行われているようです。

今年は「土壌汚染物質分析技術の確立による黒龍江省の土壌環境保全支援事業（3か年事業）」の最終年にあたり、最終日にはこれまでの成果の総括や今後の技術協力について環境モニタリングセンター職員と意見交換を行うとともに、来年3月までに土壌分析に係る標準作業手順書の中国語版を完成させることを確認しました。

短期間の技術指導でしたが、互いに友好関係を深めることができ大変有意義なものであったと思います。



## 【事業報告】 「やまがた環境展2018」に出展しました

10月27・28日、山形ビッグウイングにて開催された「やまがた環境展2018」にて、外来生物の模型の釣り体験や、発電器実験及びエアカーリングの体験などのブースを出展し、大盛況でした。

また、当センターで整備した「森林の水源涵養実験キット」についても、環境企画課のブースにおいて体験してもらいました。

多くの皆さまから御参加いただき、誠にありがとうございました。



楽しく釣りを  
して外来生物を  
駆除しよう



開会  
セレモニーと  
ごみゼロくん



森林の  
水源涵養  
実験  
（環境企画課）



## 【事業報告】 全国各地で研究発表を行いました(大気環境部)

### 第59回 大気環境学会年会

9月12日～14日(福岡県)

九州大学筑紫キャンパス(福岡県春日市)で開催された大気環境学会年会において、当センターから「2017年5月におけるPM2.5高濃度事例の解析」という演題で発表を行ってきました。

PM2.5は、工場や自動車の排ガス等から発生し、肺などの呼吸器の奥深くまで入り込むことによる健康影響への懸念から、重要な大気汚染物質の一つとされています。PM2.5濃度は、これまでに様々な対策が進められたことで国内では減少傾向を示していますが、年に数回、環境基準を超えるレベルの高濃度となる日があります。高濃度となるメカニズムは、国内・国外の様々な発生源と気象条件や地理的要因が複雑に絡み合うため、その解明は困難となっています。

その課題に取り組むため、国立環境研究所と全国の地方環境研究所が協力して、PM2.5の高濃度が予測される日に全国で同時サンプリングを実施し、その成分分析を行っています。得られた分析データから高濃度日のPM2.5組成や発生源の特徴を解析し、高濃度要因を把握することに努めており、このことはPM2.5濃度の低減へのさらなる対策に繋がると期待されます。

本年会では、発表内容に関して有意義な議論ができたことに加え、多くの研究発表を聴講することで知見を広げることができました。今後も、全国の調査研究に目を向け、山形県の環境保全に繋がられるよう、研究に励んでいきます。



### 第45回 環境保全・公害防止研究発表会

11月14日、15日(島根県)

この研究発表会は、環境省、島根県及び全国環境研協議会(地方自治体の環境研究所(地環研)の集まり)が主催し、環境に関する研究の大きな発表の場となっています。当センターからも野焼きによるPM2.5の発生について、「果樹剪定枝の燃焼によるPM2.5への影響」という演題で発表しました。

このような場に参加するたびに、全国の自治体や地環研の参加者のレベルの高さ、熱意に圧倒され、センターの持っている、環境を研究することに対する能力、環境に対する姿勢について、まだまだ不足していることを痛感させられます。

どの発表者も地環研が定期的に行っているモニタリングにとどまらず、より先進的、発展的な研究発表を行っていることが、研究の充実につながっていると感じました。また、環境省では「気候変動に対する適応」に関する大きな役割を自治体、地環研に期待しているという話がありました。両者に共通して大事なことは、既存のものにとらわれずチャレンジな気持ちで日々の活動をおこなうことだと思います。

これから、さまざまな環境の問題・課題にどのように対していくかを考えるうえでとても有意義な研究発表会でした。



松江駅での写真  
市からの歓迎を受けるほど  
全国的なイベントです

## ほっとNEWS ～水銀測定はじめました～



大気汚染防止法の一部が改正されたことに伴い、今年から排出ガス中(煙突の煙など)の水銀測定をはじめました。

水銀は有害性の高い金属なので、正確な測定を行うことにより、公害の防止に貢献していきます。



## 各部紹介(環境化学部)

環境化学部は、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、環境の汚染状況に関する調査（常時監視）、発生源検査（排ガス、排水など）を行っています。また、環境中（河川や湖沼の水、水底の泥、土壌）や廃棄物関係の放射性物質の測定、環境放射能水準調査（原子力規制庁委託事業）、化学物質環境実態調査（環境省委託事業）を行っています。

今回は、その中から、“**化学物質環境実態調査（化学物質エコ調査）**”について紹介します。

この調査は、生産、使用や廃棄により環境中に排出された化学物質が、大気、河川などの水、水底の泥、生物の体内にどのくらい残留しているかを調べるもので、国（環境省）では、昭和 49 年から毎年継続して行っています。山形県では、最上川河口の河川水と川底の泥については平成 14 年から、村山市（当センター）の大気については平成 28 年から継続して採取しています。また、一部の化学物質については分析も行っています。

本県を含む全国の調査結果は、「化学物質と環境」にまとめられ、環境省のホームページからみることができます（<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/index.html>）。地道な調査結果の積み重ねではありますが、環境汚染の早期発見や化学物質対策の立案・評価など、国際的な取り組みを含めて、未来の環境を守る施策に活かされています。



最上川での採水の様子



（拡大部分は化学物質を集める採取管）  
大気を調査する機器

### 【お知らせ】 環境に関する講演・学習会等の講師を派遣します！

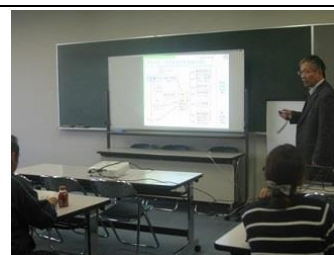


ネイチャーゲーム

前は当センター職員による環境教室を紹介しましたが、より専門的な内容について話を聞きたい場合、県が委嘱した『環境アドバイザー』を派遣することができます！

講師の派遣旅費及び謝金は県が負担します。様々な分野の環境アドバイザーがいますので、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先 環境情報棟 担当：安藤、山田（電話：0237-52-3132）



プラスチックのリサイクル

### 環境ミニ知識 ～山の実い調査～



秋といえば食欲の秋！いろんな果物等も実りますが、山もまさに実りの季節です。（もう冬ですかね…）

アケビ、オニグルミ、クリ、サルナシ、ヤマブドウ、イチゴ類など、野生動物も大好きなこれらの“山の実り”について、多くの山に関わっている皆さまへアンケートを行い、豊作か凶作かなどの調査を毎年行っています。

今年の調査結果はホームページで発表いたしますので、どうぞご期待ください！



ヤマブドウ

## 所長通信

『秋の日は釣瓶落とし』と言われるますが、晩秋も過ぎて、初冬に向かう 11 月初旬に筆を走らせています（正確には、パソコンのキーボードをたたいていますとなるのでしょうか・・・）。

昨日は、立冬ということですが、今年7月の豪雨災害に見舞われた西日本各地は夏日というニュースを耳にしましたが・・・こちら東北、山形の北村山地方は朝からの冷え込みが厳しい、職員一同、難儀な思いをしながら、元気に明るく業務に取り組んでいます。昨日は、ボイラーの試運転ということで、暖房を期待していたところですが・・・残念ながらボイラー着火装置に不具合が発生して、メンテナンス後に再度、試運転ということになりました。職員の皆さん、もう暫く我慢してください。何でもそうなんだろうが、試運転しようとするとなかなかうまく行かないものですね！そもそも、当センターが開所したのが平成 15 年 4 月ですが、事務棟は昭和 44 年に完成した、前身の旧蚕糸総合研究センターをそのまま利用しており、築後 49 年が経過しており、老朽化が甚だしい建物です。耐震強度もイマイチ（正確には性能ランク「2」という診断結果）で、毎年、防火・防災訓練（今年は 10 月 16 日）を行いながら、イザという時のために普段から備えています。

さて、今冬は、東日本大震災から 8 年目、熊本地震から 3 年目、北海道胆振東部地震から初めての冬をむかえますが、被災地ではまだまだ難儀な生活を送られる人たちのことを思えば、当センターの多少の寒さも難とはないということでしょうね！（只今の所長室の室温が 15℃というのは堪えますね！）

気象庁の予報では、今年の雪は遅いということですが、ここ数年間は豪雪に見舞われ、県民生活にも重大な影響があったことから、今冬は何とかほどほどにお願いしたいものです。なお、当センターでは、今年から経費節減ということで、雪囲い、除雪も必要最小限、かつ、職員自ら行うという途方もない魂胆を敢行します。少しでも経費を節減して、本来の研究業務の経費に回したいという苦肉の策です。この顛末は、来年度の新春号でもお伝えしたいところですが、残念ながら私は今年が最後の年ということで、次の所長にバトンタッチということで、引き継いで行きたいと思えます。



## 職員自己紹介

今年度から水環境部に配属されました、新規採用職員の荒木俊と申します。業務は酸性雨の影響調査として湖沼の分析を担当しており、2 か月に一度ほど戸沢村の奥地にある今神御池という秘境に出かけではボートで水を採取して成分を調べています。私自身、最上川のほとりで生まれ育ってきたせいか幼い頃から美しい水辺や自然が大好きで、それに関わる仕事ができとても嬉しく思っています。もちろん下山後は疲れている中遅くまで分析にかかりきりになるなど大変な一面もありますが、少しでもお役に立てるよう毎日頑張る業務に取り組んでいます。

まだまだ不慣れなことも多く、難しい場面も多々ありますが、日々一つ一つ学んでいきたいと思えます。



## 編集後記

小学生から大学生まで多くの環境教室の依頼があり講師をしてきましたが、わかり易く説明するのはやはり大変で勉強し直しています。自分も子供の頃に環境問題の話を聞いて、環境の道へ進んだのですが、環境教室に参加した皆さんにも少しでも環境問題に関心を持ってもらえたら嬉しく思います。

《編集》山形県環境科学研究センター

住所 村山市楯岡笛田三丁目 2-1 TEL 0237-52-3124（環境企画部） FAX 0237-52-3135

ホームページ <https://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/053001/>

※ 携帯電話からアクセスする際には右の QR コードをご利用ください

